



東電同窓電気

東電同窓電気株式会社

～現場のニーズを汲み取り、より働きやすい職場をめざす～

総務部 副部長 目迫公雄 さん 総務部 主任 荒井美也子 さん
 経理部 主任 赤松憲二 さん

家庭や企業などへの電気供給にとって、非常に重要な役割を担っている東電同窓電気(株)。現場の意見を汲み取り、ワーク・ライフ・バランスを積極的に推進している。



左から、赤松さん、荒井さん、目迫さん

でいるものを制度として作っています。しかし、制度を作っても現場の社員が使ってくれなければ、絵に描いた餅になってしまいますので、制度を作った後は、総務サイドが労働組合等に意見を聴いたりして、制度活用の実態を確認しています。

東電同窓電気にとっての ワーク・ライフ・バランス

——ワーク・ライフ・バランスについてどのようなお考えを持っていますか。

目迫 当社は東京電力の設備を建設したり、保守したりする業務をメインに行っています。そのため、社員は早朝から深夜まで働くこともあり、土曜日に勤務することもあります。

また、夏の酷暑や冬の厳寒の中でも、屋外で作業をする必要があります。

そのような厳しい勤務の環境でありながら、多くの社員は電気の供給という、人々の生活に必要な不可欠な仕事をしていることを誇りに思い、やりがいを感じています。

社員が厳しい勤務に耐えることができるためには、家族の理解やサポートが不可欠です。

そのため、社員が家庭生活などと両立できるような働き方ができるように、現場のニーズを汲み取り、制度設計に生かしています。

現場を回って ニーズをリサーチ

——現場のニーズはどのように把握されているのですか。

目迫 私は、入社以来総務をしておりますが、会社の財産である現場の社員とコミュニケーションをとることを私はとても大事にしています。当社で四半期に一回社報を出していますが、その取材のために、現場に行くことがあります。

自分が採用に携わった社員が、育ってきて班長や現場代理人をやっているのをみると、とてもうれしい気持ちになります。

現場に行ったとき、「お前の子どもはいくつになった？」というような話をしたり、向こうからもいろいろと声をかけてくれます。その時に、今苦労していることや困っていることも聞きます。その中で休暇の話だとか、勤務時間の話だとかがでてきたりもします。

このようにして、現場の声を汲み取って、現場が本当に望ん

変形労働時間制、積立休暇を 子育てなどにも活用

——具体的にはどのような制度を導入しましたか。

目迫 1カ月単位の変形労働時間制を導入しています。これは、仕事の量にあわせて、現場で臨機応変に労働時間を決められるので経営側にもメリットがありますが、社員の側でも個人の事情に合わせて勤務時間を融通する手段として利用できるようにしています。例えば、共働きをしていて、小さなお子さんもいる社員は、午前中は仕事をお休みして子どもの面倒を見て、午後から出勤することも可能です。

また、積立休暇制度も導入しています。これは、時効によって消滅する年次有給休暇のうち30日間を限度に積み立てておいて、育児や介護、子どもの看護、子どもの出生時や出生前における配偶者の体調不良による看護などについて利用できるものです。

私は、自分の子どもが生まれ

たときに会社を休んだ記憶がありません。しかし、今の人は、核家族でおじいさんやおばあさんがそばにいませんので、会社として社員が正々堂々と休めるような環境づくりをする必要があると思います。現場に行くと、「今度子どもができたなら積立休暇を使います」という声を聞くことがあり、制度を導入してよかったと思います。

家族とのコミュニケーションを支援

——社報で父親の似顔絵を掲載する企画があるそうですね。

目迫 当社の社員は、現場ではすごい技術をもっていますが、その反面、シャイで口数が少ない人も多いためか、家に帰ってからの貴重な時間に、奥さんとか子どもとうまくコミュニケーションをとれないといった話も聞きます。そのため、家族とのコミュニケーションを支援するような取組みをしています。

現場で社員と接すると、「子どもがかわいい」という声が多かったので、5年くらい前から毎年、社員の子どものお父さんの似顔絵を描いてもらって社報に載せる企画を行っています。私事ですが、昔、子どもが小学生のときに、父の日に描いてもらった自分の絵をまだ大事に持っています。だからきっと社員も自分の絵を子どもに描いてもらったうれしいだろうと思って、この企画を始めました。子どもとコミュニケーションをとるきっかけにもなればと思っています。

——夏祭りを各営業所で行っているそうですね。

目迫 夏祭りは、家族の人にお父さんが現場でどういう仕事を

しているのかを知ってもらうよい機会になります。

このときに、仕事で使っている高所作業車のバケットに子どもや奥さんを乗せてあげたりもします。子どもは遊園地の観覧車気分ですが、奥さんの方は、夫はこんなに大変な仕事をしているのかと改めて思うようです。



▲夏祭りの社員と家族

女性も男性もより働きやすい会社にむけて

——現場で働いている社員は男性のみなのですか。

目迫 来年度入社のための技術・技能職（現場作業）の募集に、女性の応募もあり、2名の採用を決定しました。入社後には、女性であれ男性であれ、中にはミスマッチとなる場合もありますが、スタート時点でやりたいという希望をかなえさせてあげるのが大事だと思います。当社は性別や学歴では差別を一切しません。やりたいという仕事があれば、女性でも男性でも関係がないと思っています。

——荒井さんは会社についてどのような印象を持っていますか。

荒井 私は入社して16年目になりますが、とても働きやすい会社だと感じています。21世紀職業財団の「女性のためのキャリア・アップセミナー」などにも会社の研修の一環として参加させていただいています。

——赤松さんは出生時に休暇をとったそうですね。

赤松 はい。昨年の10月に2人目の子どもが生まれたときに、積み立てていた休暇から1日間取得しました。出産の立会いをしましたが、深夜までかかりとても大変でした。翌日会社を休むことができてよかったです。妻も休んでもらえてよかったと言っていました。

目迫 これからも、女性にとっても男性にとっても働きやすい環境づくりをしていきたいと思っています。

会社概要



名称	東電同窓電気株式会社
所在地	神奈川県横浜市西区 桜木町7-40-3
事業内容	総合電気設備工事（東京電力㈱の各電力設備の建設保守工事、一般電気設備工事の設計・施工管理等）
設立	1950年
資本金	6千万円
従業員数	344名 （うち女性 13名）